

下五島の遣唐使史跡

福江島は 8 世紀から 9 世紀にかけて唐に渡った多くの遣唐使の最後の中継地であった。島の北西端にある**三井楽**の半島は、遣唐使ゆかりの地として最も有名な場所である。日本から出発した遣唐使のうち、中国との往復に成功したのは半数ほどで、多くの遣唐使にとってこの吹きさらしの岬が故郷を見る最後の場所となった。

半島に向かう道路沿いにある「**道の駅 遣唐使ふるさと館**」は、高速道路の休憩所と物産館を兼ねた博物館である。ここでは遣唐使に関する史料や、古歌に詠まれた三井楽の様子を紹介するパネルなどが展示されている。

また、三井楽の東にある白石浦にも遣唐使が入港したとされ、遣唐使船が停泊していたとされる石が祀られている。地元の人々はこの**ともづな石**に航海の安全を祈り、年季の入った石を守るために仮の祠を建てている。

福江の**大宝寺**と**明星院**は、日本から唐に渡った最も有名な旅行者の一人にゆかりがあると伝えられている。真言宗の開祖・空海（774-835）は、804 年に五島を出発した遣唐使の一員で、806 年に帰国した際にもこの島を経由したと考えられている。